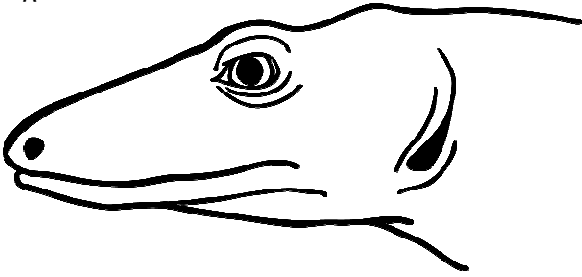
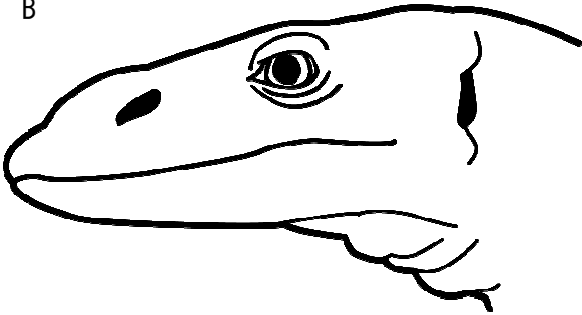


A



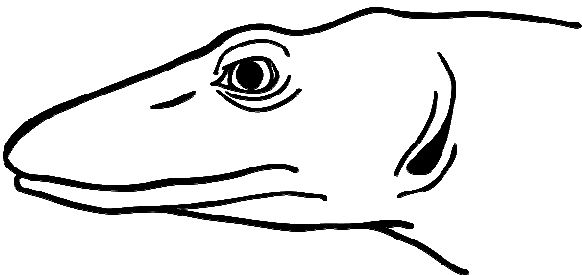
コモドオオトカゲ：鼻孔は丸く吻端近くにある。

B



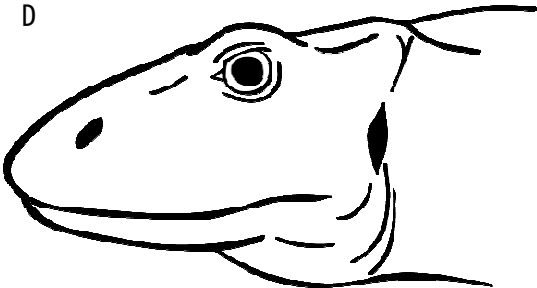
ニシベンガルオオトカゲ：鼻孔はスリット（裂口）状で目と吻端の間にある

C



サバクオオトカゲ：鼻孔はスリット（裂口）状で目の近くにある

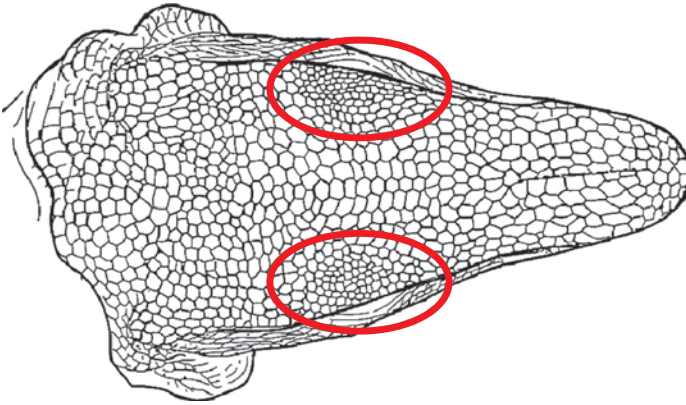
D



キイロオオトカゲ：鼻孔はスリット（裂口）状で吻端近くにある。頭の高さが大きくずんぐりしている

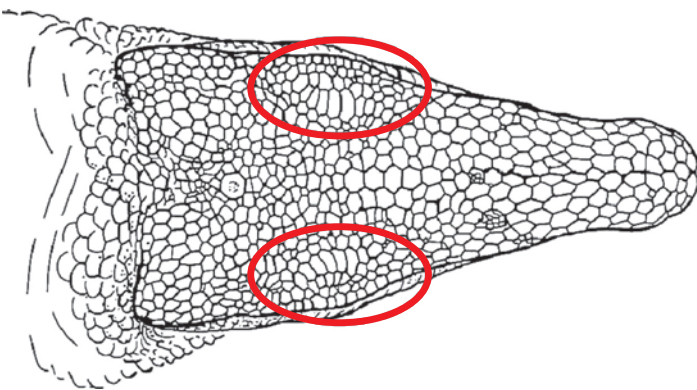
図5. ワシントン条約附属書I掲載種の頭部の形態

A



ニシベンガルオトカゲ：眼上板はあまり強くは分化せず、各列の中央部のものが特に幅広くはない。

B



ヒガシベンガルオトカゲ：眼上板が分化する。この種の場合、中央部のものが特に幅広い。

図6. ニシベンガルオトカゲとヒガシベンガルオトカゲの識別点

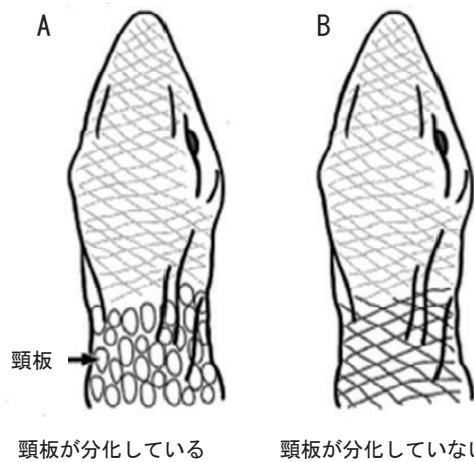


図7. 頸板（うなじの鱗）の分化程度の比較

用語解説

吻（ふん）：動物の体において、口あるいはその周辺が前方へ突出している部分を指す用語である。

尾率：頭胴長（吻端から総排泄口までの距離）に対する尾長の比率。頭胴長と尾が同じ長さであれば1.0となる。発育につれてある程度変化する（図1）。

体周鱗数：胴の中央部を取り囲むように横に一周して数えた鱗列の数（図1）。

眼上板：目の上方の鱗。多くの種では細かい鱗が敷き詰められているが、一部の種では幅広い鱗が列をなして並ぶ。この場合「眼上板が分化している」という（図6）。

尾の形：尾が側扁して断面の形が縦長になる場合と、側扁せずに円形の場合がある。基部では円形のものが多い。

頸板：うなじ（頭部の後端（おおむね左右の外耳孔を結ぶ線）から前肢の付根の前縁（肩）までの範囲）にある鱗のこと。一部の種では大型化しており、この場合「頸板が分化している」という（図7）。

キール：1枚ごとの鱗に見られる突起（うね状の角ばり）。キールが発達した鱗を持つ種はざらざらした手触りになる。

腹鱗数：咽頭皺から後肢の付根の前縁を仮想的に結ぶ線との間にある腹鱗を、中央部一行をとって縦に数える（図1）。

(3) 人との関わり

オオトカゲ類の一部の種は、主に皮革用として大量に消費されてきた。ワシントン条約の附属書Ⅰに掲載された5種は、コモドオオトカゲを除くと大陸に比較的広い分布域を持ち、かつては皮革用に多数が消費されていて、捕獲個体の一部がペット用に出回っていた。

一方で、近年（過去10年程度）は日本や欧米においてペット用の需要が増加し、皮革用にはあまり流通しなかった種を含めて、多くの生体が流通するようになっている。一部の種では飼育下繁殖個体が輸入されているが、野外採集個体の流通も多く、商取引のための採集圧は一部の種にとって大きな脅威となっていると見られる。

なお、オーストラリアにはオオトカゲ科の全種数の約半分が分布する。しかも、オーストラリア固有の種類が大半であるが、ペットトレードの現場では、それらの種類も流通している。オーストラリア政府は野生動物の輸出を禁止しており、ワシントン条約附属書Ⅱ類の種といえども、輸出の許可が下りることはない。また、その他の国に分布する種類でも、原産国の政府が保護しているのに流通しているものなどもあり、水際でのより厳しい識別が求められる。

4. オオトカゲ類各種の形態的特徴

キイロオオトカゲ 〈砂漠の黄色の砂〉

(注 種の保存法上の和名はアカオオトカゲ)

学名 : *Varanus flavescens*

外国語名 : Calcutta Oval-grain Lizard, Indian Oval-grain Lizard, Ruddy Snub-nosed Monitor, Yellow Land Lizard, Yellow Monitor, Golden Monitor, Short Toed Monitor, Gelb-Waran

異名 : アカオオトカゲ、イエローモニター、ゴールデンモニター、ショートトモニター

原産地 : バングラディッシュ、インド東北部、ネパール南部、パキスタン東部インダス川流域

体長 : 全長 95cm± (頭胴長 42cm±)

類似種 : サバンナオオトカゲ

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1975~2009年) : 0 個体

①頭部の形態

- ・頭長は頭幅の2倍以下。
- ・鼻孔は縦のスリット(裂口)状で吻端に近い(図5D)。
- ・鼻先は尖らずに丸味を帯びる。
- ・眼の後方に黒褐色の帯模様がある。
- ・吻に厚みがあり頭は短く、丸い感じがする。

②鱗の形態、尾の断面の形

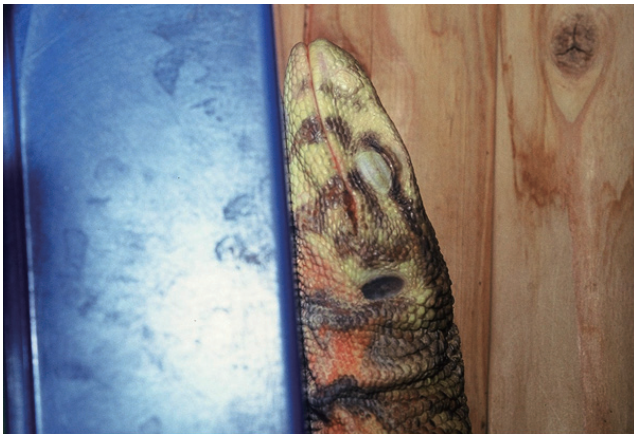
- ・頸板は頭頂部の鱗よりも大きく(図7A)、頸側部の鱗にもキールがある。
- ・胴部の鱗は比較的大きく、体周鱗数は82~94。
- ・腹鱗は滑らか。
- ・尾は基部から強く側扁し、短く、尾率は約1.3。

③体色と模様

- ・黄色っぽい体色が特徴である。
- ・体に黄色と赤褐色の模様があり、尾ではそれら2色ははっきりした横帯となっている。

④類似種との比較

- ・サバンナオオトカゲはうなじの鱗が大型化していて、キイロオオトカゲにやや似ているが、鼻孔はより目に近い位置にある。
- ・コガネオオトカゲや一部のミズオオトカゲも黄色っぽい体色だが、これら2種には体に黒い模様があり、吻はキイロオオトカゲよりずっと長くて尖っている。



鼻孔の形（スリット状）と位置（吻端近く）を示す。（図 5D）



頭は高く（＝平たくない）、丸い感じ。



尾は側扁する。



尾は短く、全体にずんぐりむっくりの体形をしている。



黄色い部分には変異がある。

ニシベンガルオオトカゲ 〈暗灰色のゴマ塩〉

(注：種の保存法上の和名は インドオオトカゲ)

学名：*Varanus bengalensis*

外国語名：Bengal Black Lizard, Bengal Lizaed, Bengal Monitor, Common Monitor, Indian Monitor, Indian Small-grain Lizard, Penang Lizard, Talagoya Lizard, Tara Goya, Bengal-Waran

異名：ベンガルオオトカゲ、インドオオトカゲ、ベンガルモニター、インディアンモニター、ロングテールモニター、タラゴヤ

原産地：ミャンマー西部、バングラディッシュ、インド、スリランカ、パキスタン、アフガニスタン南部、イラン南東部

体長：最大全長 160cm± (頭胴長 62cm±)

類似種：ヒガシベンガルオオトカゲ

掲載種の原因国が日本に輸出するために発行した輸出許可数
(1975~2009年)：492 個体

①頭部の形態

- ・頭は小さく鼻先は尖っている。
- ・鼻孔はスリット（裂口）状で、吻端よりやや目に近い位置にある（図 5B）。
- ・目の上の鱗（眼上板）が細かく密生し、中央部の列が特に幅広くはない点でヒガシベンガルオオトカゲと区別できる（図 6A）。

②鱗の形態、尾の断面の形

- ・尾は著しく側扁する（図 4B）。
- ・尾はやや短く、尾率は 1.3 くらい。
- ・尾の中央部の鱗は、上下でほぼ等大で、環状に配列する。
- ・頸板は丸くて滑らかであり、キールはない。

③体色と模様

- ・体色は黒褐色、灰褐色で、黒い小点を多く持つ。
- ・頸部から尾にかけての背面に淡褐色の横帯や虫食い模様があるものもいるが、ほとんど無地の個体も見られる。

④類似種との比較

- ・かつてのベンガルオオトカゲは 2 種（ニシベンガルオオトカゲ、ヒガシベンガルオオトカゲ）に分割された。本種は狭義のベンガルオオトカゲである。
- ・ヒガシベンガルオオトカゲによく似ており、外形では鱗の形態でしか識別できない。